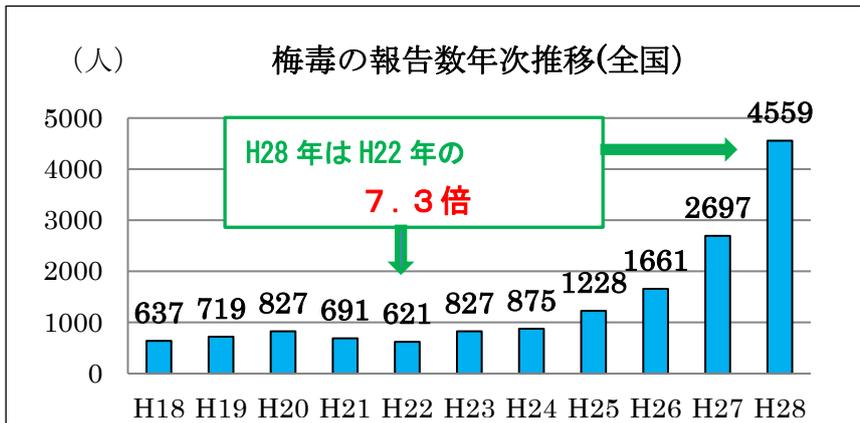


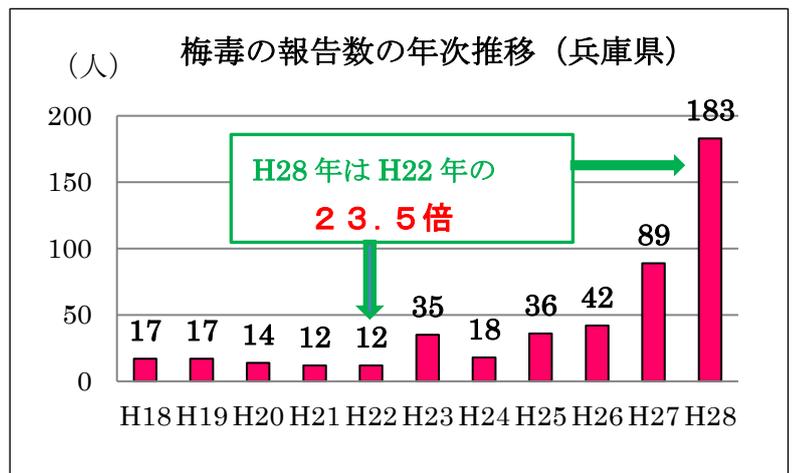
梅毒患者が増えています！

全国の梅毒の報告数について、平成 22 年以降の増加が顕著であり、平成 28 年（暫定値）は平成 22 年の **7.3 倍** となっています。

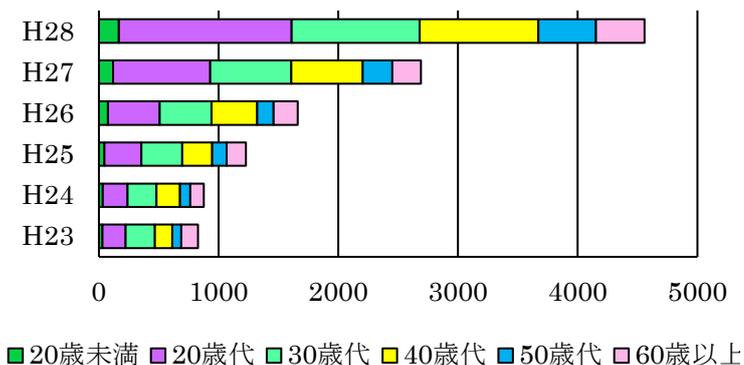
兵庫県においては、平成 22 年まで減少傾向にありましたが、平成 23 年に 35 人と急増、平成 24 年は 18 人に減少しましたが、以後著しい増加傾向にあります。平成 28 年は 183 人（暫定値）の報告があり、**平成 27 年の 2 倍以上** になっています。**平成 22 年と比較すると 23.5 倍** です。



年齢をみるとどの年齢も著しい増加が見られています。特に **20 歳代** では **平成 28 年は平成 23 年の 7 倍** に増えています。



梅毒報告の年齢状況 (全国)



【検査について】

◆感染の有無を確認するには、**血液検査を受けることが必要です**。心配な場合は、**医療機関（男性：泌尿器科 女性：産婦人科）を受診**しましょう。

◆兵庫県の健康福祉事務所では、エイズ相談と併せて、梅毒も無料匿名で検査（予約制）しています。

加東健康福祉事務所

毎月第1・第3木曜日午後（事前予約制）

申し込み、問い合わせ先

加東健康福祉事務所

健康管理課 0795-42-9436

梅毒って？



病原体	梅毒トレポレーマという病原菌
感染経路	性交、オーラルセックス等の直接接触感染、母子感染等
症状	<p>感染したあと、経過した期間によって、症状の出現する場所や内容が異なります</p> <p>【第Ⅰ期】感染後約3週間 初期には、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）にしこりができることがあります。 また、股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。 痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。 しかし、体内から病原体いなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性があります。</p> <p>【第Ⅱ期】感染後数ヶ月 治療をしないで3ヶ月以上経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹がでることがあります。 発疹は治療しなくても数週間以内に消える場合があり、再発を繰り返すこともあります。治療しない限り、病原菌である梅毒トレポレーマは体内に残っており、梅毒が治ったわけではありません。この時期に適切な治療を受けられなかった場合、数年後に複数の臓器の障害につながる可能性があります。</p> <p>【晩期顕性梅毒】感染後数年 感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じて、重傷化するケースもあります。</p>
治療	一般的には外来で処方された抗菌薬を内服します。（病状によって医師が判断されます）きちんと治療を行えば、完治させることが可能です。

* 感染した人の血液中には一定の抗体ができますが、再感染を予防できるわけではありません。繰り返し感染する可能性があります。

* 妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、奇形が起こることがあります（先天梅毒）。

【予防について】

◆性交渉の相手が増えれば感染する危険も高まります。**複数の相手と無防備な関係をもたないことが大切です。**

◆感染を予防するためには、パートナーとよく話し合い、お互いを守るために**正しくコンドームを使いましょう。**

ただし、コンドームを使用しても100%予防できると過信せず、皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触を控えましょう